

(4) 水道料金

令和3年度の給水原価は145.17円、供給単価は154.35円となった(図-10)。令和2年度と比較し、供給単価が約9.8円高くなっている。これは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえた経済対策として行われた水道料金の減免が一部事業者で終了したためと推測される。

給水原価、供給単価を全国と同年度で比べてみると、直近の水道統計によれば、令和2年度の全国平均では給水原価が166.47円、供給単価は166.64円となっているのに対し、令和2年度の大阪府の給水原価は144.75円、供給単価は144.51円であった。給水原価、供給単価ともに全国平均を下回っており、給水原価と供給単価がほぼ同等な価格となっている。

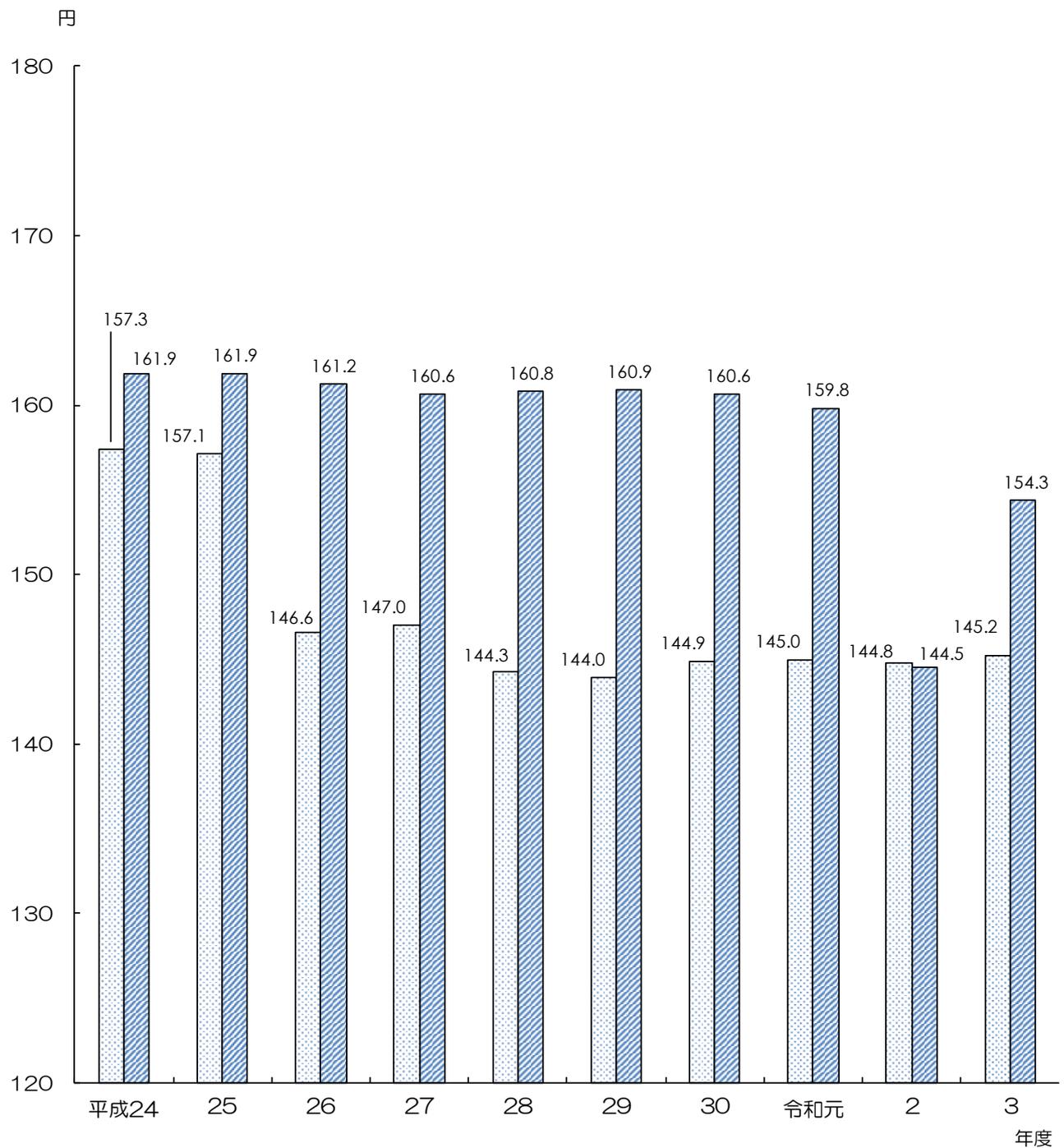
表-15のとおり事業者間で格差が生じているが、家庭用1ヶ月20m³(口径別料金の場合13mm)当りで換算して比較すると2,600円以上2,800円未満の事業者が最も多く、府平均は2,894円となっている。

また、最高料金は4,906円で最低料金2,035円の2.41倍となっている(表-15)。

表-15 家庭用水道料金(上水道)

		令和4年3月31日現在
1ヶ月20m ³ 当り換算		事業数
2,000円未満		0
2,000円以上 2,200円未満		2
2,200円以上 2,400円未満		1
2,400円以上 2,600円未満		8
2,600円以上 2,800円未満		11
2,800円以上 3,000円未満		9
3,000円以上 3,200円未満		6
3,200円以上 3,400円未満		2
3,400円以上 3,600円未満		1
3,600円以上 3,800円未満		0
3,800円以上 4,000円未満		1
4,000円以上		2
(備考) 平均料金	2,894 円	
最低料金	2,035 円	
最高料金	4,906 円	

図-10 給水原価と供給単価（上水道）




 給水原価 = $\frac{\text{経常費用} - \text{受託工事費} - \text{長期前受金戻入等 (平成26年度以降)}}{\text{年間総有収水量}}$


 供給単価 = $\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$